

主要 AI 企業の Deep Research 機能: ビジネス応用と競合比較

Grok3

1. 調査の背景

AI 技術の進化に伴い、主要 AI 企業は高度な調査・分析を自動化する「Deep Research」機能を次々と発表しています。これらの機能は、ビジネスにおける意思決定を迅速化し、競合分析や市場調査を効率化するツールとして注目されています。本報告では、2025 年 1 月中旬から 4 月中旬までの 3 カ月間に発表された OpenAI、Google、Perplexity.ai、Microsoft の Deep Research 機能について、技術概要、提供形態、ビジネス応用、導入企業、収益モデル、競合比較、差別化戦略を詳細に調査しました。

2. 主要 AI 企業の特定

調査対象として、以下の AI 企業を選定しました。これらは AI 研究開発で先進的かつ世界的に認知されており、最近の発表で「Deep Research」または類似の機能をリリースしています:

- OpenAI: ChatGPT の開発元で、高度な推論モデルを活用。
- Google (Gemini): 検索技術と AI を統合した研究ツールを提供。
- Perplexity.ai: 高性能な検索・分析ツールで新興企業として注目。
- Microsoft: Microsoft 365 エコシステム内で AI ツールを展開。

3. 各企業の Deep Research 機能の発表

過去 3 カ月間 (2025 年 1 月中旬 ~ 4 月中旬) のプレスリリース、公式ブログ、ニュース記事を調査し、以下の発表を確認しました:

- **OpenAI:** 2025年2月3日に「Deep Research」を発表し、2月25日に全ての有料プランで利用可能に(The Guardian)。
- **Google (Gemini):** 2025年3月14日に「Gemini Deep Research」をリリース(Gemini)。
- **Perplexity.ai:** 2025年2月13日に「Perplexity Deep Research」を発表(Perplexity.ai)。
- **Microsoft:** 2025年3月25日に Microsoft 365 Copilot に「Researcher」と「Analyst」を追加(TechCrunch)。

4. 技術概要と提供形態

各企業の Deep Research 機能の技術概要と提供形態を以下の表にまとめます：

企業	技術概要	提供形態
OpenAI	<ul style="list-style-type: none"> - 基盤モデル: o3(最新の推論モデル) - 多様なオンラインソース(テキスト、画像、PDF)を分析し、5-30分で報告書を生成 - 引用付きの報告書を作成 	<ul style="list-style-type: none"> - ChatGPT 内のボタンとして提供 - US 限定、Pro プラン(月額\$200、月 100 クエリ)
Google (Gemini)	<ul style="list-style-type: none"> - 基盤モデル: Gemini 1.5 Pro(後に Gemini 2.0 Flash Thinking と 2.5 Pro に移行) - 100 万トークンのコンテキストウィンドウ、RAG(Retrieval-Augmented Generation)を使用 - 計画、検索、推論、報告のエージェント機能 	<ul style="list-style-type: none"> - デスクトップ、モバイルでグローバルに利用可能 - Google Workspace ユーザーにも提供
Perplexity.ai	<ul style="list-style-type: none"> - 複数の検索を行い、数百のソースを読み込み、推論を通じて報告書を生成 - Humanity's Last Exam(21.1%)と SimpleQA(93.9%)で高いスコアを達成 	<ul style="list-style-type: none"> - Web、iOS、Android、Mac で利用可能 - 無料(非 Pro ユーザーは制限あり)、Pro プランで無制限
Microsoft	<ul style="list-style-type: none"> - Researcher: OpenAI の Deep Research モデルを活用、Microsoft 365 Copilot の高度なオーケストレーションと検索機能を組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> - Microsoft 365 Copilot の一部 - 2025年4月から Frontier プログラム経由で提供

企業

技術概要

提供形態

- Analyst: o3-mini モデルを基にデータ分析、Python コード実行可能

5. ビジネス応用事例と導入企業

各機能のビジネス応用事例と導入企業は以下の通りです：

OpenAI Deep Research

- **応用事例:** 金融、科学、工学分野の専門家向け。市場分析(例: 翻訳アプリの市場分析)、購入決定支援(例: 車や家具の購入)。報告書は引用付きで信頼性が高い。
- **導入企業:** 特定の企業名は公表されていないが、Pro プラン利用者に限定されているため、企業や専門家が主なユーザー。Stripe の CEO が X で「優れている」と評価(WIRED)。
- **参考:** The Guardian

Google Deep Research

- **応用事例:** 競合分析(製品、価格、マーケティング、顧客フィードバック)、デューデリジェンス(営業リード調査、企業情報)、トピック理解(概念比較)、製品比較(家電製品の機能やレビュー比較)。ベンチャーキャピタリストやイベントプランナーにも有用。
- **導入企業:** Google Workspace のビジネスおよび教育ユーザーが利用可能。具体的企業名は未公表。
- **参考:** Gemini

Perplexity Deep Research

- **応用事例:** 金融、マーケティング、技術、健康、製品研究、旅行計画。ワークアーティファクトの作成やパーソナルコンサルタントとしての役割。幅広い業界に対応。
- **導入企業:** 特定の企業名は公表されていないが、無料で広く利用可能なため、さまざまな業界のユーザーが利用可能。
- **参考:** Perplexity.ai

Microsoft Researcher/Analyst

- **応用事例:** Researcher: ゴール・トゥ・マーケット戦略の策定、四半期報告書の作成。Analyst: 高度なデータ分析、Python コード実行によるスプレッドシート作成やレポート生成。
- **導入企業:** Microsoft 365 Copilot のユーザー(企業が主)。サードパーティデータ(Salesforce、ServiceNow、Confluence など)と連携可能だが、具体的な採用企業は未公表。
- **参考:** TechCrunch

6. 収益モデル

各企業の収益モデルは以下の通りです:

- **OpenAI:** Pro プラン(月額\$200、月 100 クエリ)。クエリ数の制限は処理コストによる。
- **Google:** 無料で試用可能。Gemini Advanced サブスクリバード向けに高度な機能(Gemini 2.5 Pro)を提供(価格未公表)。
- **Perplexity.ai:** 無料(非 Pro ユーザーは日次クエリ制限あり)、Pro サブスクリバード向けに無制限クエリ。
- **Microsoft:** Microsoft 365 Copilot のサブスクリプションに含まれる(具体的な価格は未公表)。

7. 競合比較

各企業の Deep Research 機能を以下の表で比較します:

企業	能力	対象ユーザー	利点	欠点
OpenAI	高度な推論モデル(o3)を使用、深い分析能力。引用付き報告書を生成。	専門家、プロフェッショナル。	深い分析能力、信頼性の高い報告書。	高価なサブスクリプション、地域制限あり。
Google	エージェント機能、広範な検索と推論能力。Google Workspace との統合。	一般ユーザー、Google	広く利用可能、無料試用可能。	競合との直接的な性能

企業	能力	対象ユーザー	利点	欠点
Perplexity.ai	高いベンチマークスコア (Humanity's Last Exam、SimpleQA)。多様な業界対応。	Workspace ユーザー、一般ユーザー、Pro ユーザー。	無料で高性能、広範な応用可能性。	比較が少ない。非 Pro ユーザーのクエリ制限。
Microsoft	エンタープライズデータとの統合。Researcher と Analyst の 2 つのツール。	Microsoft 365 ユーザー、企業。	エンタープライズデータとの連携が強み。	新しいツールのため、採用例が少ない可能性。

8. 差別化戦略

各企業は以下のように自社の機能を競合と比較し、差別化を図っています：

- **OpenAI:** 高度な専門性と信頼性を強調。Pro プランでのみ提供することで、専門家や企業ユーザーをターゲットにしている。o3 モデルの推論能力を活用し、詳細な報告書生成を強みとする。
- **Google:** 広範なアクセシビリティと Google Workspace との統合を強みとし、一般ユーザーからビジネスユーザーまで幅広くカバー。無料試用でユーザー獲得を目指す。
- **Perplexity.ai:** 無料で高性能なツールを提供し、ベンチマークスコア (Humanity's Last Exam や SimpleQA) で競合を上回ることをアピール。Pro プランで追加の価値を提供。
- **Microsoft:** Microsoft 365 エコシステム内のツールとして提供し、エンタープライズデータ (Salesforce、ServiceNow など) との連携を強みとしている。企業向けの統合ソリューションを重視。

9. 結果分析

- **主要 AI 企業の動向:** OpenAI、Google、Perplexity.ai、Microsoft は、いずれも「Deep Research」機能をリリースし、AI が高度な調査・分析タスクを自動化す

る方向性を示している。これらのツールは、従来の人間の調査作業を大幅に効率化する可能性がある。

- **ビジネス応用:** 金融、科学、マーケティング、製品研究など多岐にわたる。特に、企業内のデータと外部データを統合して活用するケースが増えている(例: Microsoft のサードパーティデータ連携)。
- **競合との比較:** 各社は独自の技術や提供形態で差別化を図っており、ユーザーのニーズに応じた選択肢が広がっている。OpenAI は専門性、Google はアクセシビリティ、Perplexity.ai は性能、Microsoft はエンタープライズ統合で優位性を発揮。
- **収益モデル:** サブスクリプションやフリーミアムモデルが主流。無料で試用可能なモデル(Google、Perplexity.ai)がユーザー獲得に有利だが、OpenAI や Microsoft は高額なサブスクリプションで収益を確保。
- **導入企業:** Google Workspace ユーザーや Microsoft 365 ユーザーが既にアクセス可能。OpenAI と Perplexity.ai は特定の導入企業が公表されていないが、Pro プラン利用者に限定されているため、企業や専門家が主なユーザーと考えられる。

10. 結論

主要 AI 企業 (OpenAI、Google、Perplexity.ai、Microsoft) は、過去 3 カ月以内に「Deep Research」機能を発表し、ビジネスにおける高度な調査・分析を可能にするツールを提供しています。これらの機能は、競合分析、市場調査、データ分析などの業務を効率化し、意思決定の質を向上させる可能性があります。各社は技術的強みや提供形態、収益モデルで差別化を図っており、ユーザーのニーズに応じた選択肢が揃っています。特に、Google と Perplexity.ai は無料で広く利用可能な点が魅力であり、OpenAI と Microsoft は専門性とエンタープライズ対応で優位性を発揮しています。どのツールを選ぶかは、予算、必要な分析の深さ、既存システムとの統合性によります。

11. 推奨事項

- **企業ユーザー:** Microsoft 365 や Google Workspace を利用中の企業は、それぞれの Deep Research 機能を優先的に検討。エンタープライズデータとの統合が必要な場合は Microsoft が適している。
- **専門家:** 深い分析を求める場合、OpenAI の Pro プランが適しているが、コストを考慮する必要がある。

- **一般ユーザー:** 無料で高性能なツールを求める場合、Perplexity.ai や Google の無料試用がおすすめ。
- **今後の観察:** 各社の機能進化や新たな導入事例に注目。特に、Microsoft の Frontier プログラムの展開や Perplexity.ai の Pro プラン普及が市場に与える影響を注視すべき。